

巻頭言

アメリカ日蓮宗のこれから

現代宗教研究所所長 三原正資

米国カリフォルニア州ヘイワードにある日蓮宗開教布教センターの開設二〇年記念法要が平成二二年（二〇一〇）一〇月三十一日、同センターで営まれた。

日蓮宗新聞（平成二二年一月一日）はその様子を次のように伝えている。

開設二十年記念大法要は十月三十一日、渡邊照敏宗務総長名代の駒野教源宗務院総務局長を導師に営まれた。副導師を理事の北米開教区長金井勝海師、サンノゼ妙覚寺別院松田龍紹師、宗務院国際課長及川玄一師と平井智親センター所長が務め、式衆にはヨーロッパ、南米、東南アジア、北米各地から十三人の開教師、国際布教師などが出席。法要終了後の記念昼食会では駒野総務局長、現代宗教研究所の三原正資所長、国際開教対策委員会の石井英雄師がそれぞれ挨拶した。（以下略）

翌十一月一日（月）から四日（木）まで、同センターで国際布教研修（Retreat for International Priests）が開催された。八時三〇分から夜九時までのハードなもの。その主な内容は次の通りである。

第一日

開講式 (Opening Ceremony)

講義 1 戒名の付け方 (Buddhist Name)

実践講習 1 葬儀 (Funeral Service)

講義 2 給仕について (Serving)

第二日

講義 3 開会について (Kai)

実践講習 2 追善法要 (Memorial Service)

講義 4 日蓮宗のシステム (Nichiren Shu System)

第三日

講義 5 新宗教問題 (New Religions)

実践講習 3 結婚式 (Wedding)

最終日

自由討議 (Discussion)

閉講式 (Closing Ceremony)

この間に、朝勤 (Morning Service) / 昼食 (Lunch) / 夕勤 (Evening Service) / 夕食 (Supper) がある。参加者は近くのホテルに宿泊し、ホテルで朝食をすませた。

私は講義 3 と 5 を、山口功倫所員は講義 6 を担当した。トラビーニ勝亮師は通訳として私たちの講義を助けた。

研修中のランチは楽しかった。食法 (Table Grace) は英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などで唱えた。日蓮宗の教えが、ゆっくりとはあっても、西欧世界にひろがっていることを実感した。

最終日のランチのとき、タラビーニ勝亮師のご両親が来られた。タラビーニ師のうれしそうな顔を忘れられない。ところで、平成二三年一月に開催された当研究所主催第二一回法華経日蓮聖人教団論セミナーの講演をお願いしたケネス・田中先生が東京新聞 (平成二三年二月三、一〇日) に「欧米人を魅了する仏教の秘密」と題して次のように述べていた。

彼らが仏教に魅了される原因は (略) 仏教の本質にあるとみる。彼らは、仏教を「信じる宗教」(religion of faith) ではなく、「目覚める宗教」(religion of awakening) と、とらえているのだ。

これは、どういうことか。

キリスト教などには、立派な教義があるが、その教えを体験する方法が明確ではないのに対し、仏教は誰もが日々実践できる瞑想などを通して実際に教えを体験できることにひかれると話す。(略)

雇用の不安定は心の不安を増幅する。必然、「頼るのは自分しかない」という孤立化は深まる。人々は「聖なる心の体験」を求め始めている。

欧米の仏教は、こうした先進国現象を着実にとらえ、誰もが個人で実践できる瞑想、題目、念仏を提供することで人々の精神的なニーズに応えることに成功しているといえる。

研修中、私は、開教師や国際布教師の Morning Service や Evening Service の真剣な動作、英語による読経の美しさに感動したが、それは彼らがそれを仏教の実践 (Practice) そのものであり、「聖なる心の体験」だと考えていたからではなからうか。それに、お経を母国語で朗唱することは、私たち日本人が直接に理解できない漢文を読誦することとは違った体験をもたらすのではなからうか。私たち日本の仏教者がついに為しえなかった実践を、彼らは幸運にも体験している。この意味では、私は、「アメリカ日蓮宗」の誕生にたちあっていたのである。

日蓮宗開教布教センター平井智親所長はアメリカ仏教Ⅱアメリカ日蓮宗について次のように指摘している。

例えば、皆様はここで画用紙を渡され、太陽の絵を書いて下さいといわれた時に、どのように書かれますか？

多分殆どの方は赤の絵の具で丸く大きな太陽を書かれると思います。アメリカの子供たちも同じように書くと思われませんか。当然だろうとお思いになるでしょう。でも事實は違います。アメリカの子供たちは太陽を書く時に、赤ではなく普通黄色を使います。何かの時に小学校を尋ね、教室で子供たちの絵を見た時に、しばらくしてその黄色い丸が太陽だとわかった時かなりショックを受けました。(『現代宗教研究』四三号所収「海外における教化について」平成二十一年)

かつて、中村元氏は『東洋人の思想方法』の中で、インド、中国、日本等の人びとのものの考え方の違いを論述した。その結果、仏教はアジア各国でいろいろの花を咲かせた。仏教は、アメリカでどのような花を咲かせるのだろうか。楽しみである。

金井勝海・久美子夫妻に寿司やに案内された。日本のお寿司は California Roll と呼ばれるものとなって、アメリカ人に好まれている。四〇年以上も前のことだが、サンフランシスコのバイン通りに道場を構えて布教されていた釈日

法師が、私への書簡の中で

例へばマグロの刺身は日本人には御馳走であつても一般の西洋人には食欲の対象とならないものです。

と記されていたことを思うと、隔世の感である。

研修会修了後、平井智親師、マコーミック龍英師、山口功倫所員とともに、ゴールデンゲートブリッジを渡り、山路を通ってグリーンガルチ禅農場へ行つた。僧堂に入ったとき、ひとりのアメリカ人と思われる女性の修行者は、私たちを迎えて合掌し、礼拝した。そのとき、女性の修行者が浮かべた微笑を忘れることができない。それは慈悲と平安にみちていた。アメリカ仏教は美しい花を咲かそうとしている、と私は感じた。

これから、ハイワードに集まった開教師と国際布教師が各々の国の色で日月の光明を発揮することを期待している。